

都市再生整備計画

どうしちく
道志地区

やまなしけん どうしむら
山梨県 道志村

平成24年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	山梨県	市町村名	道志村	地区名	道志地区	面積	980 ha
計画期間	平成 24 年度 ~ 平成 28 年度	交付期間	平成 24 年度 ~ 平成 28 年度				

目標	大目標： 快適で安心してすごせる郷づくり
	目標1 誰もが安心してすごせる村づくり
	目標2 村における良好な生活環境の創造

目標設定の根拠	<p>まちづくりの経緯及び現況</p> <ul style="list-style-type: none"> 本村は明治30年、神奈川県横浜市の近代水道の水源となり、横浜市は大正5年に村内の恩賜県有林を買収し、水源涵養林として管理を続けている。 大正9年には、台風災害により多くの死傷者と建物被害を受けたが、現在は村内28キロに26の集落を形成している。 昭和40年代から観光施設の整備を行い、昭和50年代には山梨県初の夏季学生村民宿の導入を始め、横浜市と協同の「山村と都市協同モデル事業」を実施するなど、農業、林業、養蚕の主産業から都市との交流による観光産業へと転換した。近年では、温泉施設、そば打ち体験施設や道の駅をはじめ、民間のオートキャンプ場の整備により、京浜方面から年間110万人の観光客が訪れている。 平成14年からは、地域資源を活用した小・中学生を対象に自然体験学習事業や横浜市民による森林ボランティア事業など、本村特有の地域資源を活用した事業に取り組んでいる。 近年は観光客の増加に伴い、交通量も増加してきており交通事故も多発している。地域住民の「安心・安全な暮らし」を図ることが必要である。 平成18年度総合計画策定に伴う「村民アンケート」結果では、生活道路網の生活環境整備と昭和54年東海沖地震の強化地域に指定されていることから防災対策に対する不安が高く、これらの整備が急務である。 平成19年から5カ年をかけて都市再生整備計画による交付金事業(旧まちづくり交付金)により、道路や防災施設、医療施設等の整備を進めるとともに安心安全な住環境づくりも進めている。 平成23年台風12号、15号などの災害により、道路の損壊などの被害も出ている。
---------	---

課題	<p>快適で安心してすごせる郷づくりを推進するためには、地域における防災性・安全性の充実と住環境の整備が課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域住民の生活環境に対する不安を解消するためにも、防災施設の充実体制の強化を図る必要がある。 自然環境を求めて訪れる多くの観光客に対して安心・安全を提供するためにも、地域防災整備する必要がある。 近隣市へ通ずる1級村道など未だ幅員が狭いため地域住民の生活に支障をきたしている。 基盤整備は進んでいるが、未だ課題が残るとともに。今後は整備した基盤整備をいかした活動や村民意識の向上、高揚を図る必要がある。 大規模開発の可能性が低い道志村では、行為の制限よりも豊かな自然をより多くの人に知らしめ、さらに観せる景観の整備に力をいれた景観計画策定が望まれる。 大学との連携による村の地域資源を生かした地域活性化の推進を図る。
----	--

将来ビジョン(中長期)	<p>道志村総合計画では、次の7つの基本方針(施策体系)に基づきむらづくりを推進していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 美しい環境のむらづくり 安心・安全なむらづくり 新たな産業基盤のあるむらづくり 交流基盤の整ったむらづくり ぬくもりのある安心なむらづくり 豊かな心を育てるむらづくり 自立と協働のむらづくり <p>むらづくりの基本計画として</p> <ul style="list-style-type: none"> 「安全なむらづくり」として防災施設の整備、防災体制の充実が位置付けられている。 「交流基盤の整ったむらづくり」では、快適な住環境の整備として道路網の整備が位置付けられている。
-------------	---

目標を定量化する指標							
指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
防災体制に対する村民の満足度	%	防災性・安全性・医療体制等の満足度	安心・安全なむらづくりに対する指標	48.2	23	53	28
地域防災施設の強化	%	耐震性貯水槽の充足率	防災対策に対する指標	79	23	82	28
道の駅、道志の湯の来場者数	万人	公共の施設利用者	交流人口の拡大を計測する指標	80	23	81	28

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1: 誰もが安心してすごせる村づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活利便性の向上のため、村道の拡幅及び舗装整備する。 ・災害時に備えた耐震性貯水槽を整備する。 ・災害時や救急医療体制に備えた、無停電装置を整備する。 ・村民体育館の耐震補強を行う。 ・東西に28kmと細長地形のため、防災備蓄倉庫を地域の拠点に整備する。 ・魅力ある観光ルートの形成やサービス施設の整備など観光客の受入れ環境の推進を行なう。 ・景観法に基づく景観計画の策定を行なう。 ・今後のまちづくりを検討するための事業効果分析に関する調査を行なう。 	<p>道路／基幹事業: 村道大室指線改良、拡幅、舗装 地域生活基盤施設／基幹事業: 広場(ポケットパーク) 地域生活基盤施設／基幹事業: 無停電装置 地域生活基盤施設／基幹事業: 耐震性貯水槽 地域生活基盤施設／基幹事業: 防災備蓄倉庫 地域生活基盤施設／提案事業: 無停電装置 事業活用調査／提案事業: 景観計画の策定 事業活用調査／提案事業: 事業効果分析調査</p> <p>関連事業／国道 413号改良 関連事業／施設間連絡道池之原線改良舗装</p>
<p>整備方針2::</p>	
<p>その他</p>	

都市再生整備計画の区域

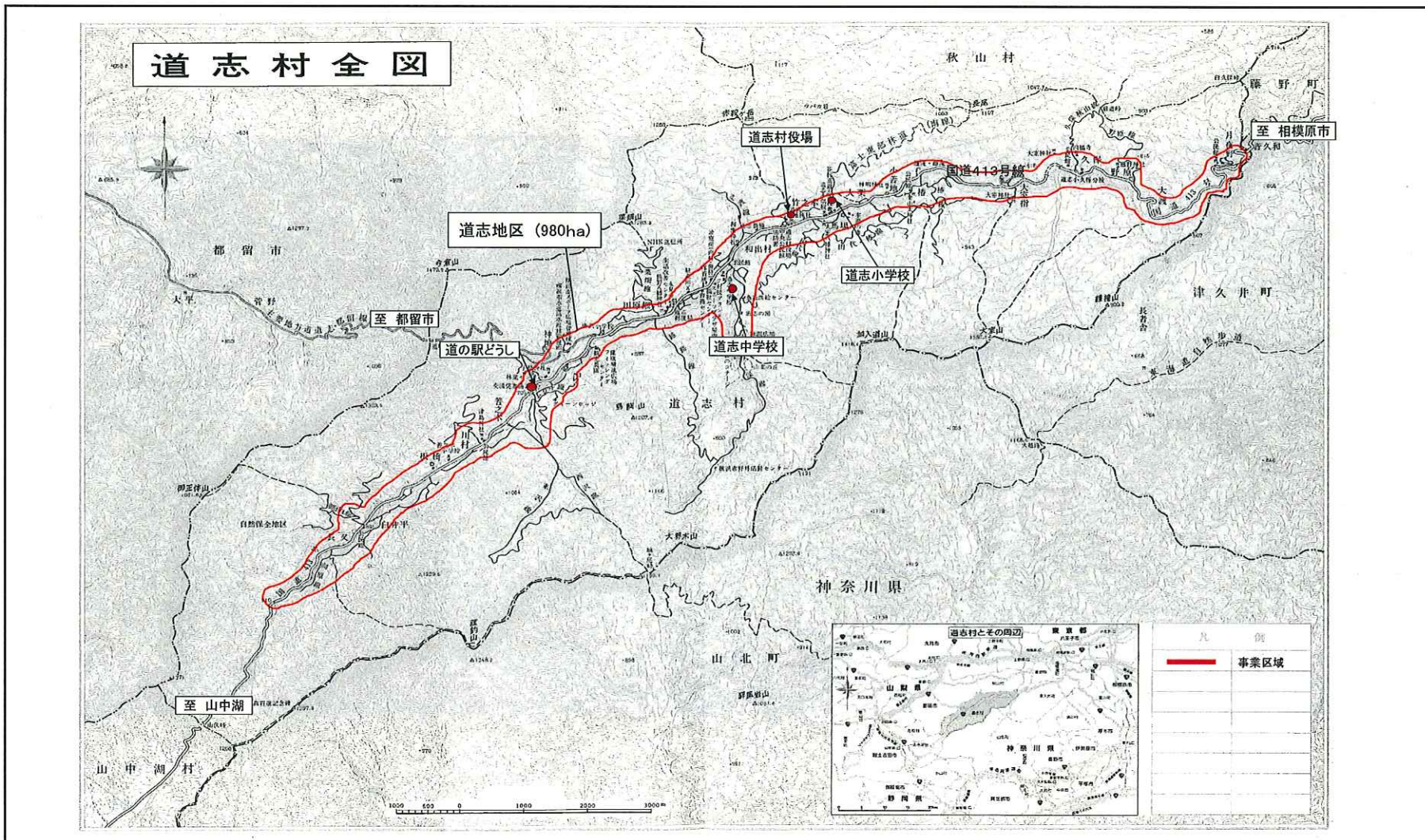
道志地区(山梨県道志村)

面積

980 ha

区域

道志地区の全域



道志地区(山梨県道志村)整備方針概要図

目標	快適で安心してすごせる郷づくり	代表的な指標	防災体制に対する満足度(%)	48.2 (平成23年度) → 53 (平成28年度)
			地域防災施設の強化(%)	79 (平成23年度) → 82 (平成28年度)
			道の駅、道志の湯の来場者数(万人)	80 (平成23年度) → 81 (平成28年度)

